

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172900280		
法人名	特定非営利活動法人ほのぼの朝日ネットワーク		
事業所名	グループホームほのぼの朝日の家		
所在地	岐阜県高山市朝日町浅井736番地		
自己評価作成日	平成21年10月31日	評価結果市町村受理日	平成22年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン2007で、この6名の小さなグループホームが認知症ケアの地域の拠点として認められ、利用者さんがのびのびと暮らせるグループホーム作りを目指してきました。今年の文化祭に手作りゲームと肩たたき棒などで出店した時、町内の90近い婦人が「あんたたちは大変だろうが、私たちにはありがたいんや」と言われた。「多くの皆さんのお役には立っていませんが…」と私が言うと、「いや、ほのぼのがあるだけで、私たちは安心なんやさ、ありがとうね」「私の方こそ、そう言うてくださってとても嬉しいです。ありがとうございます。」
地域の中で、私たちのグループホームの存在そのものが安心感を与えていることがわかり、感動した。地域の福祉の拠点としてほのぼの朝日の家が名実ともに成長したのだと思う。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172900280&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成21年11月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの存在が、地域の人たちに理解され深く根付いている。民家を改造し、中心に居間を配置し、その周りに利用者の部屋が間取りされ、ゆったりとした空間となっている。日常生活は利用者や家族の希望・要望を十分に聞いている。重度化や終末期については、職員が介護の勉強している。また、家族と話し合いを行い、その都度、利用者の変化を確認し、家族に報告しながら、家族が宿泊し付き添うことができる。場合によっては、夜間に複数の職員が宿泊し支援をしている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価票

{セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。}

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の引継ぎ時、毎月のケア会議等で理念を基本にした話し合いをもち、特に気になるところは引継ぎ表に記し、職員と共有化し、実践につなげている。	利用者と共に、生きがいある暮らしを実現する理念を地域の交流の場に生かしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	「どこにでも出かけ、来るものは拒まず」を信条に毎日の農協への買い物、地区の子ども会の花壇の管理、お祭り、文化祭等日常的に交流している。	訪ねて来る人は喜んで歓迎し、近所、知人など訪問者が絶えない。地元で行われる行事・祭礼・文化祭・敬老会にも積極的に参加交流し、子供会の花壇管理もしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の高齢者の生涯学習機関の開会式の記念講演で、事業所代表が「認知症にならない、なっても暮らせる朝日町づくり」報告をした。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの現状報告、介護計画とサービスの実際等取り組みの状況について話し合ったが、社会的状況から地域のメンバーの参加が少なく、開催条件について課題が残った。	2ヶ月に1回開いているが、会議に出席者が少なく会議で決定された事の話合いが十分に生かされていない。	行政担当者や地域各団体などの幅広い人材の方々にメンバーに入って戴けるように要望し、また、家族の代表も参加できるように、会議の日時等を考慮されたい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	NPO法人の総会には、必ず朝日支所長が参加して、朝日町の現状を話し合い、活動についての意見交換をして、日常的に協力関係を築くよう取り組んでいる。	行政参加の下、機会あるごとに、グループホームの現状を報告をしている。インフルエンザ対策や介護保険のサービス等、行政の理解と協力を働きかけ、より良いサービスの向上に取り込んでいる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠も、身体拘束であることを全職員が理解しており、自宅への外出が日課となっている利用者さんにも、付き添っていくケアに取り組んでいる。	身体拘束の研修をホーム内で実施している。利用者の各部屋には鍵はなく、玄関の鍵は昼間は掛けず、夜間のみ掛けるようにしている。利用者が外に出掛けても見守りしている。また、近所の方の理解と協力がある。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が権利擁護推進員養成研修に参加、ケア会議で、全員で研修に取り組み、虐待について理解し、防止に努めている。		

グループホーム ほのぼの朝日の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケア会議の中で学ぶ機会は持ったが、ホームで成年後見制度の必要な利用者さんについては、入居前に手続き済みだったので、話し合う必要がなかった。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書とともに、十分な説明を行い、理解・納得を図った。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月一回のご家族への便りに意見、要望をいつでも表して下さるようお願いしており、ご家族への電話連絡の折、重ねて要望を聞くようにしている。	家族へは、月1回のグループホームのたよりを利用し、言いにくいとも言える雰囲気作りをしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の対応の中や、ケア会議において職員の意見や提案を聞く機会を設け、話し合い、反映させている。	月1回のミーティングや日々の申し送りの中で、職員の意見を聞く機会を持ち、職員の意見や提案を反映させ、勤務体制なども工夫している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	次期の管理者養成のため、リーダー制度を開始させたり、個々の状況に応じて勤務時間の対応を考慮したり、ケアに関する手当を設けて向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、研修の機会の確保をし、福祉関連の資格取得への支援をしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高山市内及び下呂市飛騨市の同業者と交流する機会を作り、勉強会、相互訪問、相互研修等の活動を通じて質の向上を図る取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	開始前にご本人の自宅・利用施設を訪問したり、ホームに見学に来ていただき、ホームと職員に馴染めるようにし、不安なこと・要望を傾聴して不安を取り除き、入居前の環境づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とは、利用者さんのこれまでの人生をお聞きし、困っていることや不安なこと、要望等をお聞きし、信頼関係作りに努めた。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時のご本人とご家族の必要としている支援を見極め、対応した。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や、後片付け、部屋の掃除、洗濯物干し等ご本人のできることは、なんでもしていただき、できないことだけを支援する関係を作っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にはがきをホームに出していただいたり、来訪を促したり、電話をかけて話していただいたり、お誕生日には招待したり、ご家族との絆を大切にした支援をしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者さんの住んでいた地区の友達の家や姉妹の家への訪問を支援したりして、馴染みの人や場所との関係が続くように努めている。	本人がホームの雰囲気慣れる配慮をしている。また、同じ地域の入居者が多いので、地域の方や家族の協力の下、職員が同行し、馴染みの店に買い物に行ったり、入居者の姉妹の家に出掛けたりしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さんの車椅子を他の利用者さんが押して、移動されたりする場面を見守ったり、利用者さんの話された話題を他の利用者さんにつないだり、関わりあいを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほのぼの朝日ネットワークニュース「にぎわしひろば」を送付したり、ホームの利用者さんと移転先を訪ねたりしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出時・食事前・おやつ時等行動の前には、必ず全員に希望を聞き、意向の把握をして対応している。	1日の様子を記録し、職員と個人との話し合いで介護計画の見直しに当たり、利用者の表情や様子などを観察したり、個人の希望や思いを聞いたりしながら、利用者の細かい要望や意向を把握している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式やご家族、担当のケアマネジャーの話聞き、生活歴、暮らし方、サービスの経過等の把握をしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各利用者さんの一日の過ごし方、心身状態等バイタルを基本に、食事の準備時の、炊事の状態等よく観察して、把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者さんと話したり、ご家族、担当者やケアマネジャーが意見を出し合い、また、ケア会議でも話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	来訪する家族と話し合いをして、意見や要望を聞いている。来訪されない家族には手紙や電話で連絡を取り聞いている。その人にあつた生活支援や介護計画を立て、モニタリングを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者さんごとのサービス提供記録を日々記録し、引継ぎ表等で、情報の共有化を図り、計画実施記録にも記入している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族とともに、利用者さんの「消えた年金」の受け取りへの対応をしたり、遠方のご家族や、病気のご家族に代わり、入院時の付き添い支援を行ったり、ニーズに対応した多機能で柔軟なサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の長寿会の敬老会、地区の祭り、社会教育振興課主催の文化祭、お盆の音楽花火大会の開催等把握し、楽しめるよう参加を支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	NPO法人の理事であるかかりつけ医と看護師と密接な関係を持続させ、適切な医療を受けるよう支援している。	利用者の家族の同意を得て、入居前に引き続き、かかりつけ医の適切な訪問診療を受けている。その結果を家族に連絡している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師とは、日常的に相談できる環境があり、受診や看護について支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者とは、緊密な連絡を取り、情報交換や、相談に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、利用者さんご本人との話し合いは、慎重にしなければならないが、ご家族との話し合いは、何回か行なったご家族もいる。地域の関係者？とは誰を指すのかわからない。	利用者や家族に契約時に同意書を貰っている。職員も終末期の介護の勉強をし、家族と話し合いを行い利用者の変化を確認し家族に報告しながら、家族が宿泊し付き添える。場合によっては夜間 複数の職員宿泊し支援をしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の研修を行ったが、全職員は参加していない。ケア会議や、日時折に触れ、初期対応を学習している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は築いており、避難訓練を行い、身につけるよう対応してきたが、車椅子使用者が2名になったので、夜の対応を検討しなくてはならない。	防火訓練に参加し毎月避難訓練をしているが、夜間のスタッフ少なく、車椅子の方も見えるので、地域の人々の協力が得られるようにしているが、夜間設定の訓練がされていない。	消防署の協力を得て、近所の方々に声掛けをし、地域住民の協力の下に、夜間設定の訓練も含んだ独自の避難訓練の実施が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんに対する言葉かけや、対応は自尊心を尊重し、プライバシーを損なわないよう意識して対応するようにしている。	料理自慢の方の意見を聞いたり、話題を変えないでご本人の気のすむまで話を聞く支援をしている。その人の誇りやプライバシーを損ねないように気遣いをしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつ時の飲み物や、外出、遊びやゲームに対する参加等ご本人の希望を必ず伺い、自己決定の場面をできるだけ多く作るようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前中はベッドで寝ていたい利用者さんや、町内の行事には参加したくない利用者さんなどご本人のペースを尊重した支援をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪に必ずピン止めをする利用者さんや、眉を描く利用者さん等その人らしい身だしなみを支援したり、靴を購入したい利用者さんの買い物支援もしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	まず、献立の希望を伺うことから始まり、一人ひとりのできることを活かしながら、職員と利用者さんが一緒に準備や食事、後片付けをしている。	利用者に献立 調理法を習ったり、相談しながら職員と共に準備や盛りつけ配膳を行っている。食後の片付けも利用者の力を生かしながら、一緒に行い食器の整理も見守っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量・水分確保は、サービス提供記録の記録を見ながら、各々飲みやすいものを、提供したり、職員がいない状況のほうが飲みやすい利用者さんやふりかけ白米だと食べられる利用者さん等それぞれに応じて工夫して支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯洗浄を勧め、自歯の方には、歯磨きをしていただくよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄の記録からパターンを把握し、さりげないトイレ誘導や立位の支援とともにトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者の排泄記録をつけ、排泄パターンや習慣や顔色から、トイレの誘導や声かけをし、トイレの排泄の自立支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	海藻類や繊維質の多い飲食物を献立に取り入れたり、散歩や外出への働きかけ等個々に応じて予防に取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日希望にあわせて夕食後にも支援している。	その人に合わせて、入浴は毎日の人と一日おきの人があり、夕食後にも支援されている。入浴時間は利用者の希望を聞き、出来るだけ希望の時間に楽しんでもらっている。夜間入浴も可能である。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中はベッドで寝たい利用者さんや、朝食後ベッドで眠りたい利用者さん等その方に応じて安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師から説明を受け、理解できるようにし、服薬支援と症状の変化に注意を払うようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割小鳥の水かえ、共用の洗濯物たたみ、洗面所の掃除、食堂の床拭き、雑巾縫い等を果たしていただき、喫茶店でのケーキセット、ぜんざい等の楽しみごとの支援をしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は希望がある場合はもちろん、できるだけ戸外に出かけられるよう支援している。普段いけないような場所へは、ご家族や地域の方たちと協力しながら、職員と一対一で行きたいところへいく外出支援を行っている。	日常的に、近所に出掛けたり、買い物に行っている。家族や地域の方との見守りの下に、外食に出掛けたり、職員と以前からの知り合いの人に会いに出掛けている。	

グループホーム ほのぼの朝日の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	教え子さんからのプレゼントへのお礼や、ご家族に電話をしたり、ご家族にはがきを書いていただいたり等の支援をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間にはできるだけ昔使ったような懐かしいものを配置し、生活感や秋には干し柿お正月には松飾等の季節感を取り入れて居心地よく過ごせるよう工夫している。	古い民家を改築し、大きな炬燵のある居間を中心に、ゆったりとコミュニケーションが図れるようになっている。また、玄関や廊下などの共有空間には、神棚、掛け軸、利用者の顔写真、季節の花などを飾り、工夫されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	おやつなども希望に応じて食堂と居間で別々にいただいたり、工夫している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好きな歌手のポスターとか、同級生から贈られた墨絵、縫いぐるみや童子のお人形、ご本人が使用していた水屋、鏡台等配置し、居心地よく過ごせるようにしている。	居室には、馴染みのダンスや鏡台が置かれ、写真やポスターが貼られている。手製の飾り物や昔懐かしいぬいぐるみなどが飾られ、ゆったりと自分の時間が過ごせるように、工夫されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは、「便所」等利用者さんの時代の言葉で表したり、部屋のわからなくなった利用者さんには、名前のわかるものを配置したり、見守りの体制を強化し、安全かつできるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		